

組織名	うつのみや市政研究センター
-----	---------------

1 組織概要

所在地	栃木県宇都宮市旭1丁目1番5号市役所6階 総合政策部 政策審議室 市政研究センター
TEL	028-632-2059
FAX	028-632-7014
URL	https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shisei/machi/kenkyu/index.html
e-mail	専用送信フォームあり
設立	2004年4月1日
設置都市等	栃木県宇都宮市
代表者	三橋 伸夫（所長／宇都宮大学名誉教授）

2 組織動向

(1) 沿革

設置経緯	2004年、宇都宮市が抱える行政課題について調査研究し、新しい時代に対応した政策の提案を行うため、総合政策部政策審議室の出先機関として設置した。
見直しの動向	—
役割(2020年時点)	○「調査研究機能」「人材育成機能」「情報収集・発信機能」の3つの機能を持つ。 ○特に調査研究機能については、少子高齢化、分権化、市民の価値観の多様化など、時代の潮流変化へ対応するための、基礎的・専門的、中期的な課題に関する、政策及び施策の調査研究を行う。 ○市の部局における調査研究や政策及び施策立案を支援するため、各種相談、情報提供等を積極的に行う。

(2) 組織体制

設置形態(択一)	<input checked="" type="checkbox"/> 自治体の内部組織 <input type="checkbox"/> 常設の任意団体(提言等を行う会議体型の団体も含む) <input type="checkbox"/> 公益法人(財団法人・社団法人) <input type="checkbox"/> 大学の附置機関 <input type="checkbox"/> 広域連合 <input type="checkbox"/> その他(具体的に:)
常勤職員数	3人
うち常勤研究員数	3人
非常勤研究員数	3人
専門性確保に関する特徴(複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 専門的な知識を有した研究員の採用 <input checked="" type="checkbox"/> 外部有識者の活用(研究員として採用した者を除く) <input checked="" type="checkbox"/> 大学・非営利活動法人等と連携した研究の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 設置市の企画部署と連携した研究の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 設置市の関係部署と連携した研究の実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に: 幅広い識見と地域政策に理解を持つ学識経験者、事業者等構成された企画運営アドバイザーの設置) <input type="checkbox"/> 特に行っていない
庶務体制	主として本課(政策審議室)が行い、一部研究所内にて行っている。
市民参加、外部連携	大学との連携(共同研究・勉強会の実施・大学での講義実施など)

(3)会計		
会計規模※人件費・間接費(オフィス賃借料、水道光熱費等)は含まない		
2020年度予算	3,820 千円	
2019年度決算	3,030 千円	
2018年度決算	3,710 千円	
自治体の内部組織以外の団体の場合の事業活動収入の主な内訳 (多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	
	2位	
	3位	
	4位	
自治体の内部組織の場合の事業活動収入の主な内訳 (多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	設置部局の予算
	2位	
	3位	
	4位	

3 活動動向

(1)活動実績	
定期刊行物	「市政研究うつのみや」(年度1冊発刊)
(2)活動のマネジメント状況	
ア テーマ決定 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 設置市からの要請 <input checked="" type="checkbox"/> 外部有識者等からの助言・示唆 <input type="checkbox"/> 貴団体・組織で、設置市の総合計画等に明記された重要課題から選択 <input checked="" type="checkbox"/> 貴団体・組織で自ら発案 <input type="checkbox"/> その他(具体的に:)
イ 情報発信 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 設置市の議員や幹部職員に、報告や提言を行う <input checked="" type="checkbox"/> 設置市の関係部署に、報告や提言を行う <input type="checkbox"/> 設置市の庁内の広範囲に、成果物を配布する <input checked="" type="checkbox"/> 報告会を実施する <input checked="" type="checkbox"/> 日常的活動を、HP・メールマガジン・ニュースレター等で周知する <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) <input type="checkbox"/> 特に行っていない
ウ 活動の評価とその反映 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 設置市の行政評価制度により評価を受けている <input checked="" type="checkbox"/> 運営委員会等、貴団体・組織の運営に関わる機関から評価を受けている <input checked="" type="checkbox"/> 外部有識者から評価を受けている <input checked="" type="checkbox"/> 報告会・アンケート等の機会を設けて、評価を受けている <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) <input type="checkbox"/> 特にそういう機会はない

4 特記事項

研究員の業務分担	<ul style="list-style-type: none"> ○所長(非常勤) <ul style="list-style-type: none"> ・センター業務の統括 ・研究員の調査研究に関する助言・指導 ○副所長(課長級職員) <ul style="list-style-type: none"> ・センター業務の統括 ・調査研究及び政策形成支援業務 ○研究員 <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究及び政策形成支援業務 ・大学連携に関する業務 ・情報収集・発信 ・庶務的業務 ○会計年度任用職員 <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究及び政策形成支援業務 ・情報収集・発信
研究員の専門性育成の手立て	市人事課主導による職員研修によって行政職員としての能力開発に努めているほか、庁外で実施されている研修やシンポジウム等への参加、研究実施における外部の有識者のアドバイス等によって、政策形成能力の向上に努めている。
研究員のキャリアパス等	<ul style="list-style-type: none"> ○公募制は実施しておらず、一般の人事異動で配属される。 ○過去のキャリアパス例 <ul style="list-style-type: none"> i) 主税課→保健福祉総務課→自治振興課→保健福祉総務課→商工振興課→都市魅力創造課 ii) 市民税課→総務課→生活福祉課→保健福祉総務課→秘書課→保健所総務課→高齢福祉課→生活福祉課 iii) みんなでまちづくり課→人事課→市街地整備課再開発室 iv) 納税課 v) みんなでまちづくり課

その他	<p>○政策形成アドバイザーの派遣： 学識経験者をアドバイザーとして派遣し、庁内各部門での高度な政策立案や新たな行政手法の開発、導入に係る調査・研究を支援している。</p> <p>○3229(身につく)勉強会の開催： 学識経験を囲んだ、少人数の職員勉強会(ゼミ方式)の開催している。</p> <p>○市提供講義「実践・宇都宮のまちづくり」の実施： 国立大学法人宇都宮大学において、本市が取り組むさまざまな施策・事業等についての講義を実施している。</p> <p>○その他の相談支援</p> <ul style="list-style-type: none">・政策立案基礎データの案内・提供など・みや研GISを用いた庁内業務の支援
-----	--

5 2020年度に実施した調査研究

調査研究名	調査研究の概要
スポーツイベント開催に伴う宇都宮市民への社会効果の指標化と行政評価への活用に関する研究	宇都宮市開催の自転車と3人制バスケットボールの国際的大会を念頭に、スポーツイベントの開催による社会効果を学術研究から抽出し、それを反映した指標を開発し、行政評価への活用に向けた政策提案を行う。文献研究の結果、指標化できる社会効果は大きく7分野にわたって存在することがわかった。ただし、これらの指標は住民の意識をもとにした定性的なものが多いため、業績指標として測定できるようにするためには、定量化すること、また行政評価に活用するためには、毎年取得可能な指標とすることが主な課題である。 国立国会図書館および市HP (https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shisei/machi/kenkyu/1009231.html) ※いずれも5月以降を予定
市内高齢者の老人クラブに関する意識についての調査研究 －加入促進に向けた提案－	高齢化が進展する中、老人クラブが地域包括ケアシステムを構築するうえで貴重な担い手として期待されている。また、クラブ活動は高齢者の健康づくりや介護予防につながることも、社会参加の場として貴重な役割を果たしている。本研究では、老人クラブの加入促進につながるよう、老人クラブが取り組むべき活動についてまとめるとともに、新規クラブの立上げや既存クラブの存続支援について提案する。 国立国会図書館および市HP (https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shisei/machi/kenkyu/1009231.html) ※いずれも5月以降を予定
宇都宮市の宅地の流通促進の可能性に関する研究 －戸建て住宅団地に着目して－	高齢化に伴い、住宅地には空き家が増え、居住誘導の妨げになるおそれがあることから、宅地が流通し新たな居住者が住む「更新」が起こっている住宅団地に着目し、その理由などをアンケートにより探った。アンケート結果では、住宅団地を選んだ理由として価格・広さから選ばれていること、住宅メーカーから土地を紹介されたケースが多いことが明らかとなった。さらに住宅メーカーの営業担当者へのヒアリングを行い、課題を整理したうえで、居住誘導にあたって住宅取得補助の対象の変更、解体・流通に伴う固定資産税の相当分の還付などを提案する。 国立国会図書館および市HP (https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shisei/machi/kenkyu/1009231.html) ※いずれも5月以降を予定
宇都宮市における国内他自治体との友好な都市関係の形成に関する調査研究 －友好(姉妹)都市に着目して－	国内の自治体間で自主的な協定の締結など、地域間連携の動きが活発化しつつある中、連携方法の1つである国内の友好都市について着目した。友好都市は本来の目的である日常交流から派生して、さまざまな分野での効果が期待されるが、中核市や県内市町においては、友好都市を締結するきっかけとして「歴史的な縁」が多く、特に「文化や習慣」や「魅力発信」に関して効果を感じている自治体が多かった。このことから、本市の「魅力発信」を行う方法として友好都市を活用することを提案するとともに、生じる可能性が高い課題について検討する。 国立国会図書館および市HP (https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shisei/machi/kenkyu/1009231.html) ※いずれも5月以降を予定
宇都宮市におけるスマート農業の展開可能性に関する調査研究	宇都宮市におけるスマート農業の展開可能性を検討することを目的とする。農林水産省はスマート農業推進の方針を打ち出しており、宇都宮市においても同様である。そこで先進事例を参照し、市とJAの役割分担の明確化、スマートシティ政策との連携強化、田んぼダムとスマート農業の結合、特定の品目に絞ったスマート農業の普及、小規模農家の支援の5つを提案する。 国立国会図書館および市HP (https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shisei/machi/kenkyu/1009231.html) ※いずれも5月以降を予定
実態と意向の調査にもとづく大谷石の再利用方策に関する調査研究	近年、建築文化の継承や資源循環の促進といった側面から、建築・土木資材の再利用に光が当てられている。本研究の目的は、宇都宮市の地場産材である大谷石を対象に、アンケート調査の分析によって、大谷石の再利用の実態と意向を解明し、その展開に向けた方策を考察することにある。研究の結果、大谷石の再利用に対する今日的な価値認識に加えて、再利用経験の有無と再利用意向の大小の二軸により大別された各群の地域住民の特性が明らかになった。以上の結果と先進事例の視察をもとに、大谷石の再利用を促す意義を考察し、関係主体が連携した組織体制や各事業者への支援体制の構築、および地域住民への細やかな支援策の3点を提案した。 国立国会図書館および市HP (https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shisei/machi/kenkyu/1009231.html) ※いずれも5月以降を予定
地域の記憶の収集・継承・活用に関する調査研究	地域の記憶の収集・継承・活用の事例を示し、本市で取り組む際の方向性を提案する。地域の記憶の収集手法は5つあり、収集を行う際にはこの中からいくつかを選択する。継承では収集した情報の編集の是非を検討し、共有の機会と継承の場の創出が必要である。活用では地域愛着・シビックプライドの醸成などの例があるが、留意点も存在する。歴史文化基本構想の実現のためにも、市民による地域の記憶の継承・活用を促進する施策が求められる。 国立国会図書館および市HP (https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shisei/machi/kenkyu/1009231.html) ※いずれも5月以降を予定